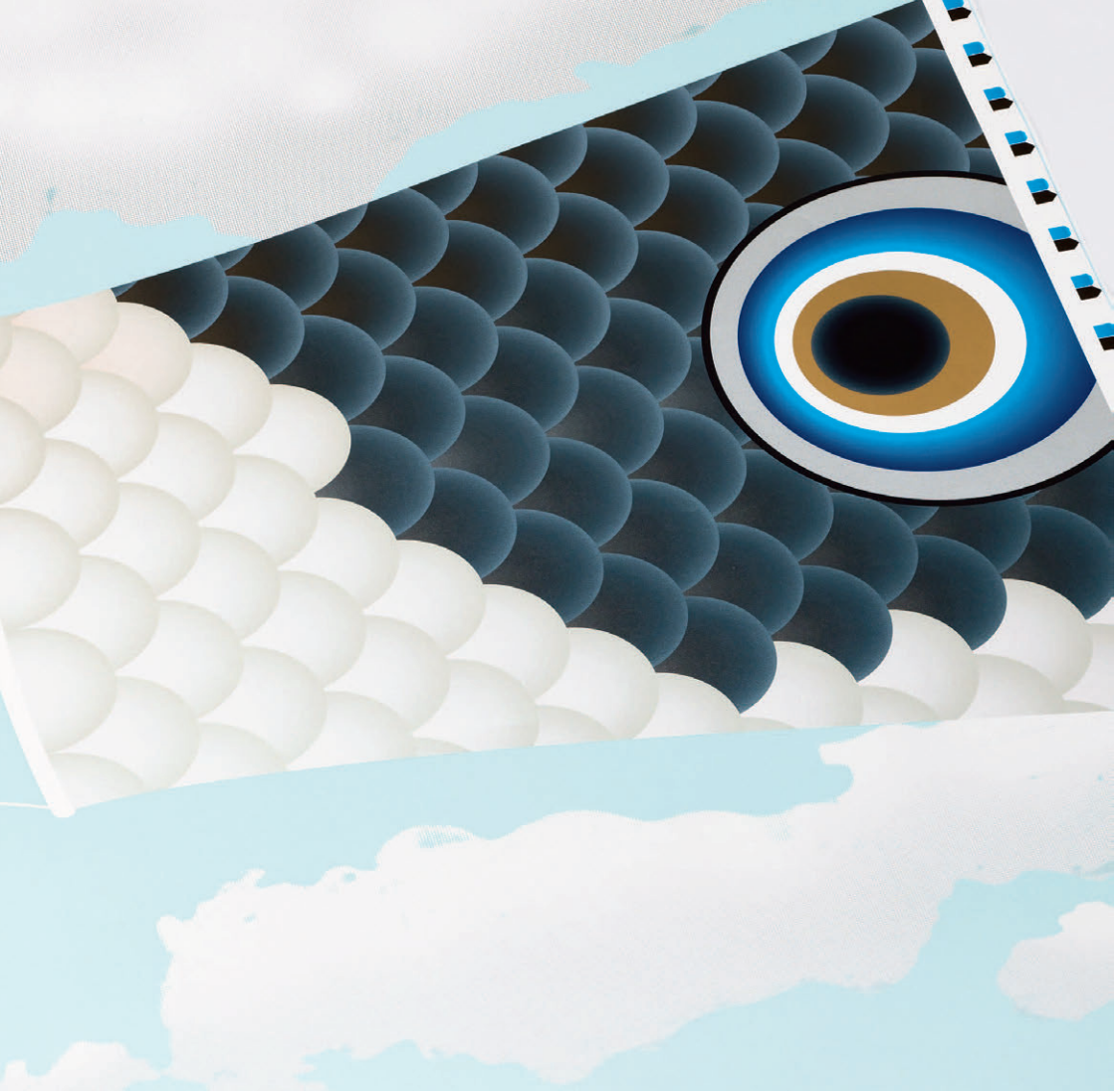


ウロコの美しさに挑戦する

新村則人

キラキラした輝きと、みずみずしさが象徴的な魚のウロコ。
オフセット印刷による表現が難しいと思われる質感を、1片のウロコのトライアルを重ねて追求しました。B全5枚で1匹の鯉のぼりを描くという大胆な構図のなかに、パールメジウムとグラデーションの繊細な表現が凝縮されています。

ABOUT TRIAL

トライアルについて

●制作の背景

新村水産の作品をつくり続けていくなかで、魚は僕のテーマの一つになっています。だから今回のお話をいただいた時、まず最初に浮かんだのが魚のウロコでした。ウロコはキラキラと光っていて、とてもキレイなものです。釣りたての魚のみずみずしく輝いているウロコも、単体となった1片の少し乾いてきたときのウロコも、それぞれにいい味があります。

実はあの独特の輝きを印刷でつくりだしてみたいという思いは、ずっと前からありました。UVインキやシルクスクリーンなどを使った表現なら、なんとなく方法も出来上がりも想像できます。それはそれでいいのですが、キラキラの表現には向かないように思えるオフセット印刷による表現は、想像できないだけにちょっと面白そうな気がしました。

それになんといっても印刷会社の方たちが全面的にバックアップしてくれるトライアルです。普段はできないような凝った印刷にも挑戦できるかも……、という期待もちょっぴりありました。

●制作コンセプト

まずは1片のウロコにこだわって、光の表現を見つけることが第一のテーマでした。キラキラ感と同時に、魚独特のヌメっとした水っぽい感じをどう出せるかが一番の課題でした。ヌメヌメ感は出せなかったものの、UVインキやシルクスクリーンとはひと味違うオフセット印刷ならではのウロコの表現を発見できたと思います。

その次のテーマが、魚のかたちを何にするかでした。「鯛」をモチーフにリアルな感じでいくか、「鯉のぼり」をモチーフにデザイン的な方向につくるか悩みましたが、両方を並行して準備しながらウロコのトライアルをした結果、半リアルなウロコを持つ「鯉のぼり」を選びました。

最終的に日本画のようなイメージに仕上げたかったので、背景の空を淡いブルーにし、雲も平面的にまとめてみました。

●印刷について

僕はどうもアイデアや撮影などに興味があるようで、あまり印刷には頓着していないのかもしれません。印刷技術についても正直なところ、あまり詳しくありません。バーコやニス、パールなど一通りは知っていますが、「あの技術を使ってこのインキで」といった具体的な指示はできないし、どちらかと言うと苦手というのが本音です。

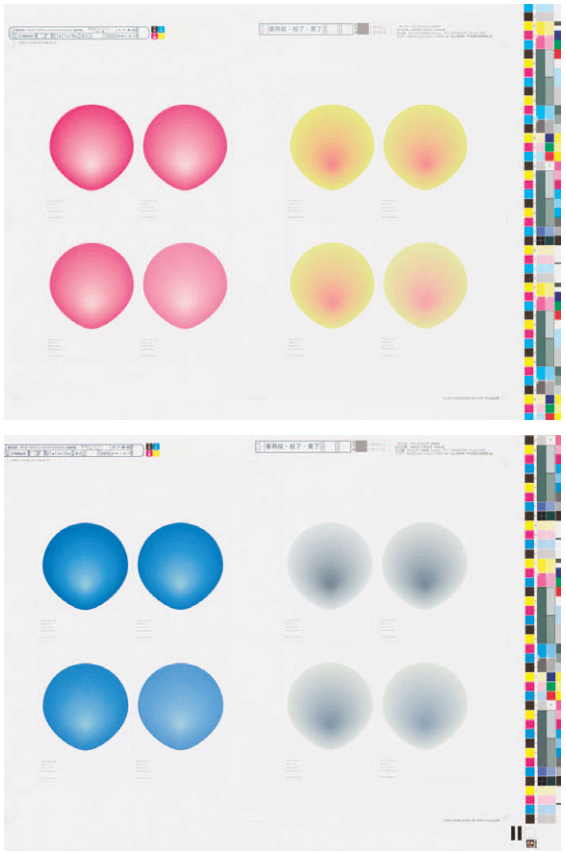
でも、最近の印刷表現は面白くてすごく興味があります。ですから、展覧会などで他のデザイナーが印刷実験をしているのを資料として集め、それを自分が行うときに参考にして印刷会社に相談しています。今回もいろいろな資料を見せながら、僕のイメージをプリンティングディレクターの尾河由樹さんに具体的に設計してもらい、つくりあげていったのです。

―― 新村則人

1

キラキラしたウロコをつくる

「ウロコの1片を取り出して実験します。パールメジウムをうまく利用しながら、どうやったらキラキラ光るのか挑戦してみたいと思います。でも光るだけじゃなくて、みずみずしい感じもほしいですよね。UVインキやシルクスクリーンならできそうですが、それをオフセットの油性インキでできるかどうか……。ちょっと錦絵の鯉のぼりのようなイメージも考えているので、写真素材は使わずに、寒色系と暖色系のグラデーションで試してみようと思います」



用紙はインキののりが良く比較的グロス感の出るラフグロス系のほか、キラキラ感のあるものやツヤツヤなものなど、ウロコのような風合いのあるものも含め8種を選択。インキはベースの色を再現するプロセス4色と、輝きを表現するパールメジウムを使用した

パールメジウムの刷り重ね

プロセス4色のグラデーションでつくった4パターンのウロコの上に、パールメジウムをそれぞれ1度、2度、3度、5度と刷り重ねた。刷り重ねるにつれ、パールメジウム独特の不透明な質感となった。

左列はパールメジウム1度刷り、右列は5度刷り。用紙は上から、ラフグロス系の「ヴァンヌーボV」、キラキラ感のある「きらびき」、ツヤのある「エスプリコート」

2

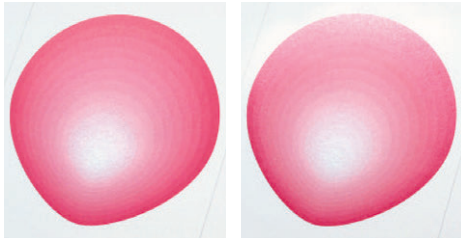
グラデーションと偏光パールでウロコに迫る

「前回はパールメジウムの重ね刷りでウロコに挑戦しました。その結果、パールを何層も重ねると独特の不透明感が出ることがわかりました。そこで今回は、グラデーションにしていろいろと刷り重ねて実験します。一つは金と銀の効果。グロスニス、マットニス、パールメジウムとともにグラデーションにして掛け合わせることで、複雑な輝きを表現できたらいいなと思っています。もう一つは偏光パール。インキの見本帳では面白い発色をしていたのでぜひ試してみたいと思います」

グラデーションの掛け合わせ

赤系のウロコに、パールメジウム、グロスニス、マットニス、金、銀を、数種類のグラデーションにして掛け合わせて刷り重ねた。
※銀は「Topstar 06 2007」を使用。以降のトライアルも同じものを使用

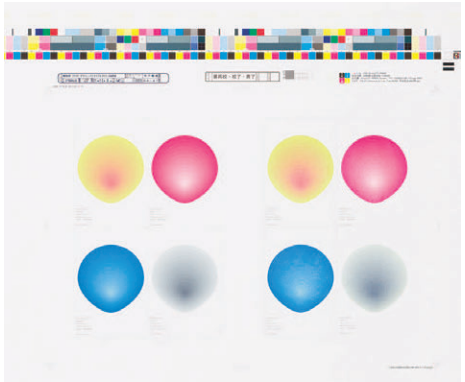
用紙は前回最も効果が出たラフグロス系の紙と、紙自体にウロコのようなキラキラした風合いのあるものなど、計3種を選択



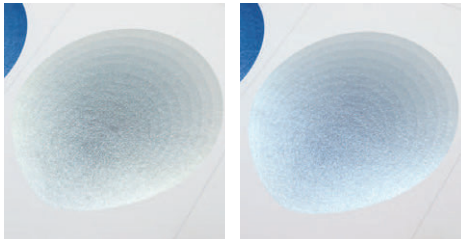
左は、パールメジウムを2種のグラデーションにして刷り、その上に銀のグラデーションを刷ったもの。右は、さらにグロスニスのグラデーションを部分的に刷ったもの。外郭部分にヌメっとした輝きが現れた

偏光パールの刷り重ね

4パターンのウロコに、さまざまな色の偏光パールを刷り重ねた。



用紙はラフグロス系のみを選択。偏光パールは色違いで5色用意し、それぞれ1度刷り（上の画像の左側4つ）、2度刷り（同右側4つ）を試した



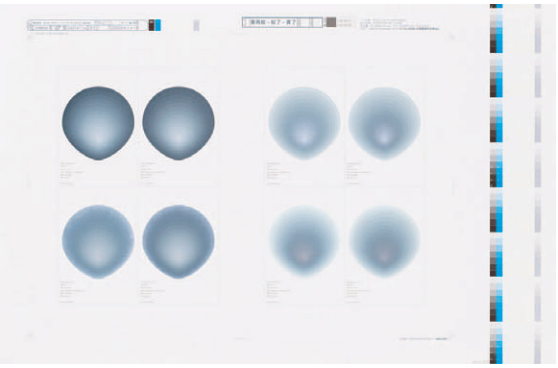
左は金色の偏光パールを、右は青色の偏光パールを、それぞれグレーのウロコの上に2度刷り重ねたもの。見る角度によって微妙にパールの色味が変化したが、予想していた効果は出なかった

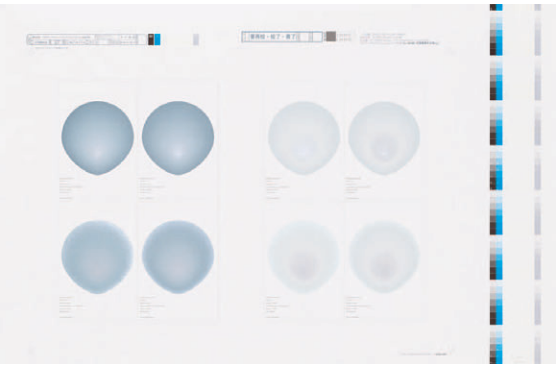
アートディレクター 新村則人 × プリンティングディレクター 尾河由樹

3

パールと銀・金・ニスでウロコらしさをつくる

「どうやら“不透明な輝き”はパールメジウムを上手に使うことでできそうなことがわかってきました。そこで、どんなグラデーションで重ねたらより効果が出るか、パールメジウムの回数とグラデーションのバリエーションを実験します。その中から効果的な組み合わせを選んでお腹の白い部分、背の濃い部分などに見立ててウロコの集合体をつくってみました。鯉のぼりも部位によってウロコの色が違うので、どれをどう使い分ければいいのか試していきたいと思います」



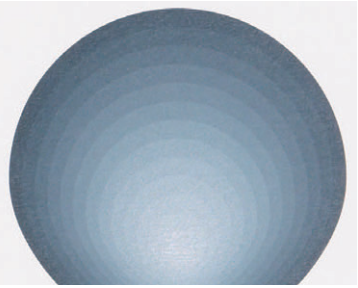


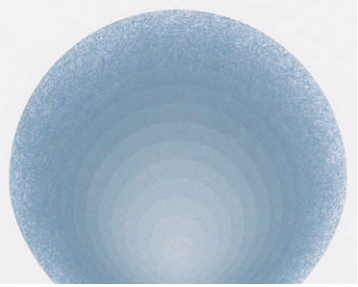
用紙はこれまでの実験で重ねたパールやグロスニスの効果が一番出た「ヴァンヌーボV」に決定。インキはベースの色にプロセスインキのシアンとブラックを、ウロコの輝きとしてパールメジウム、銀、金、グロスニスを使用

右の画像の上下のウロコは、ベースの色は同じだが、パールメジウム（5版）のグラデーションの方向が異なるだけで違う表情を見せた。上は中心から外側に向けて薄くなるグラデーションを使用。下はその逆方向を用いた。その上に、それぞれ中心から銀のグラデーションと、外側からグロスニスのグラデーションを刷り重ねている

パールメジウムの刷り重ねとグラデーションの掛け合わせ

濃度が異なるグレー系のウロコの上に、パールメジウムとグロスニス、銀または金を重ねていく。パールメジウムは、外側に向けて薄くなるものや反対に濃くなるものなど、グラデーションの幅や方向を変えて計10パターン。グロスニスと銀、金のグラデーションは各1パターン。また、パールメジウムの版数は3版と5版の2タイプを試した。

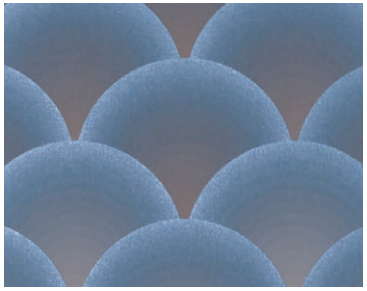


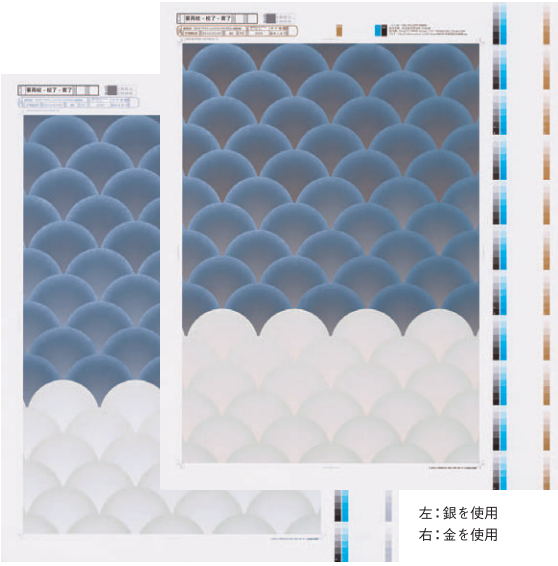


ウロコの集合体をつくる

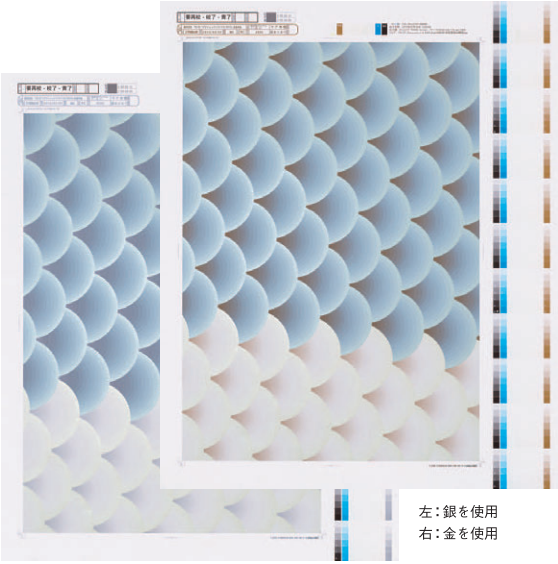
鯉のぼりの部位に合わせたウロコを選び、その集合体で見え方を確認した。

刷り順（すべて）：ブラック→シアン→パールメジウム（5版）→銀または金→グロスニス



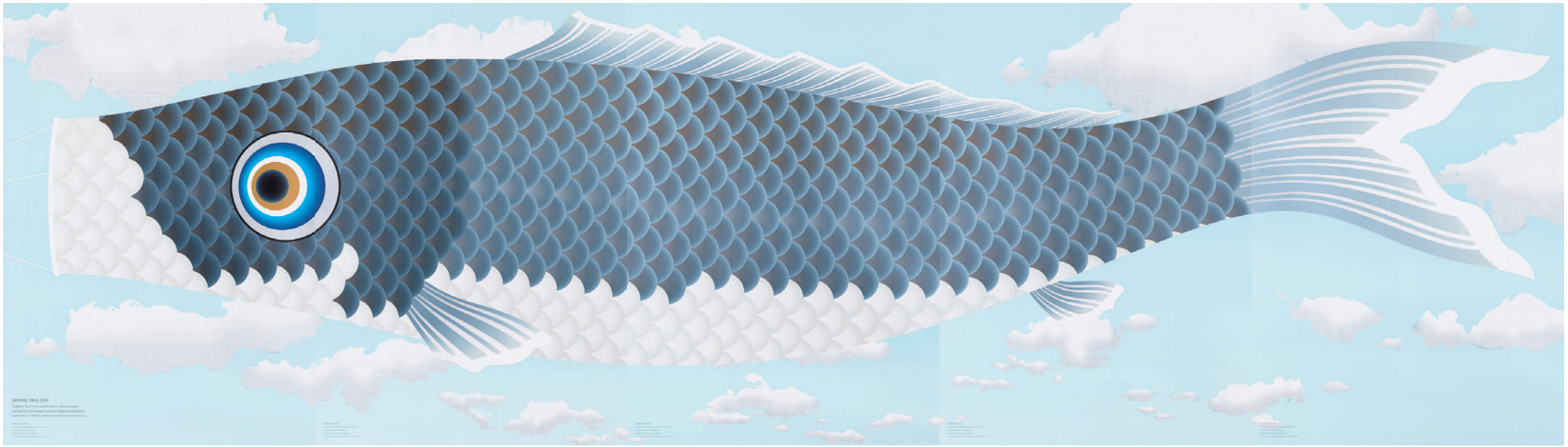


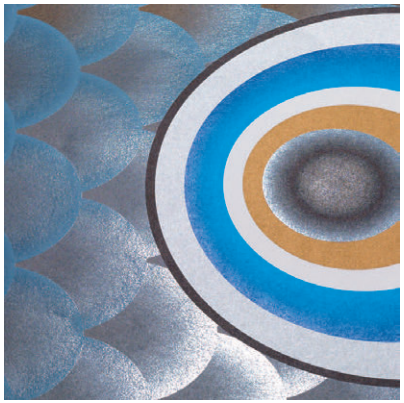
左：銀を使用
右：金を使用

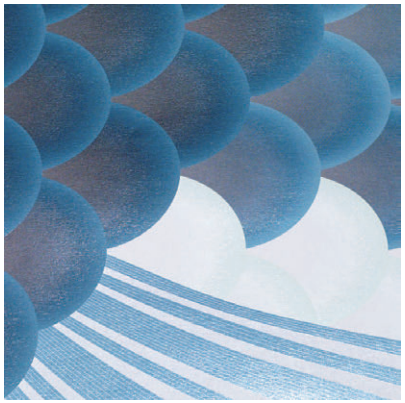


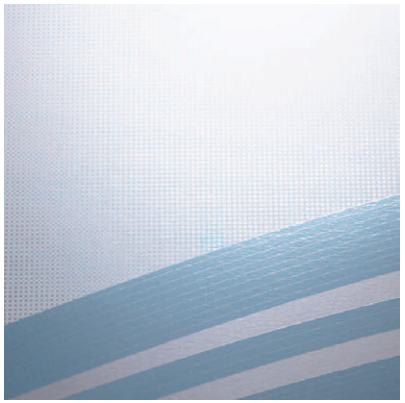
左：銀を使用
右：金を使用

FINISH
全作品とディテール

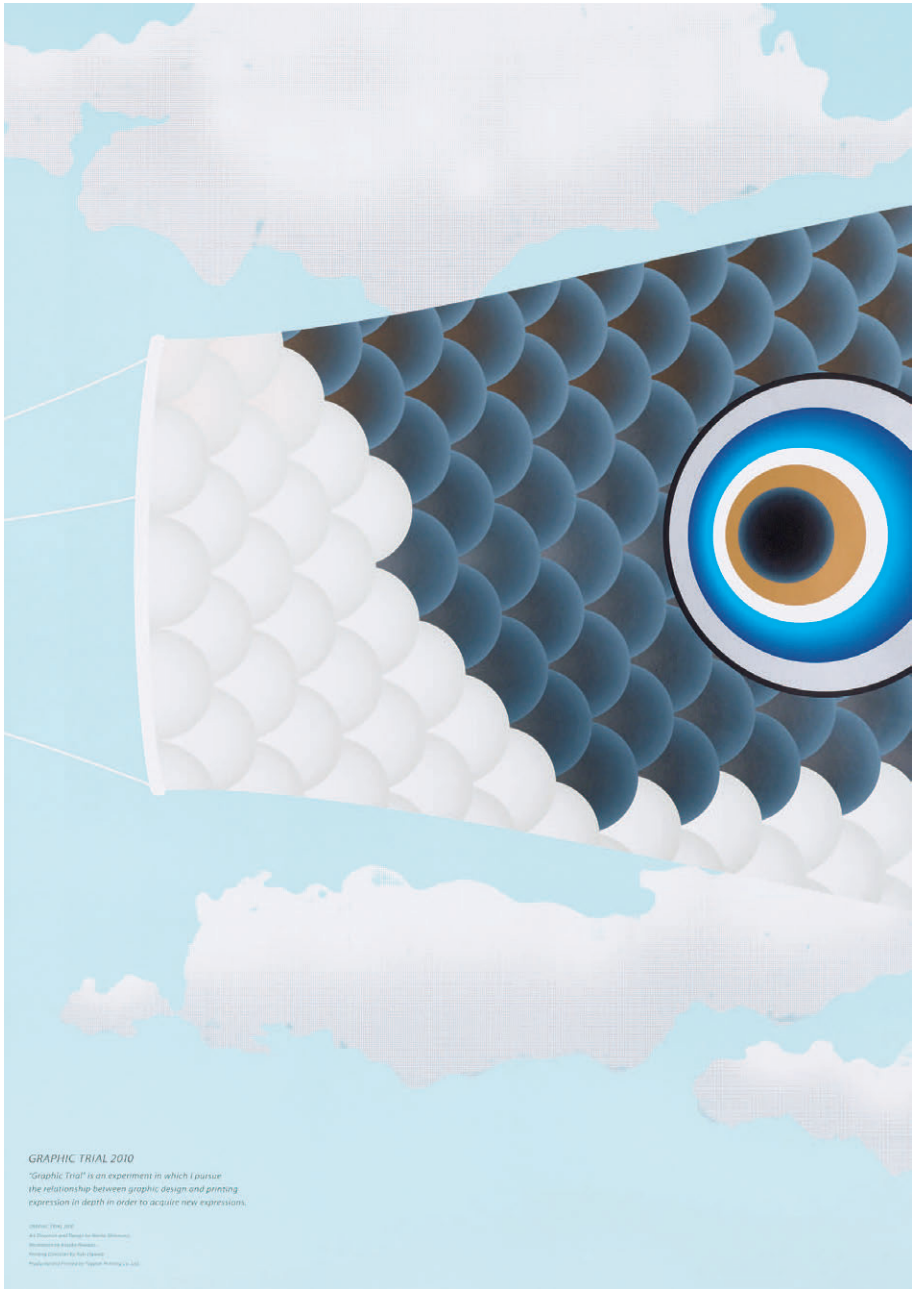




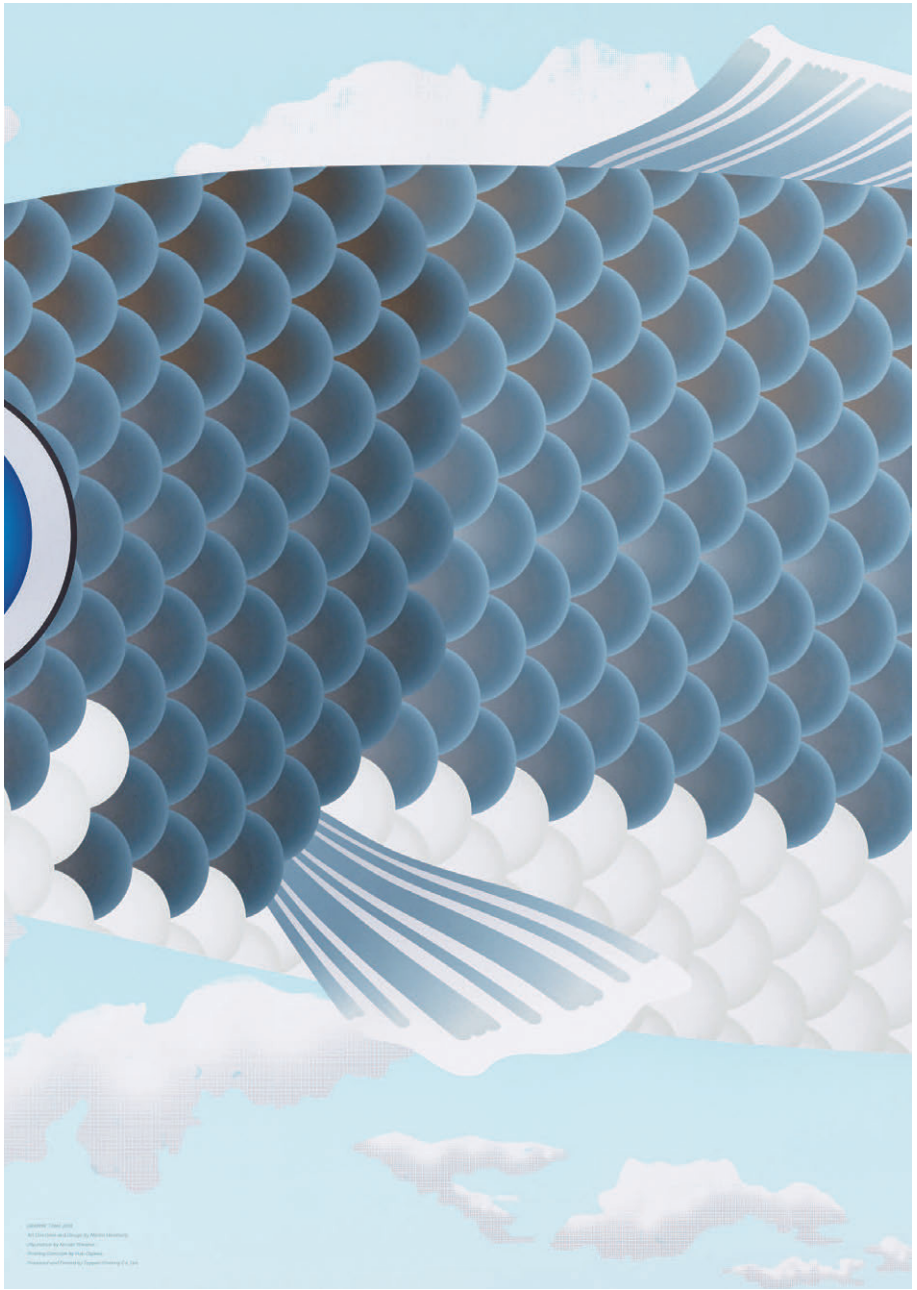




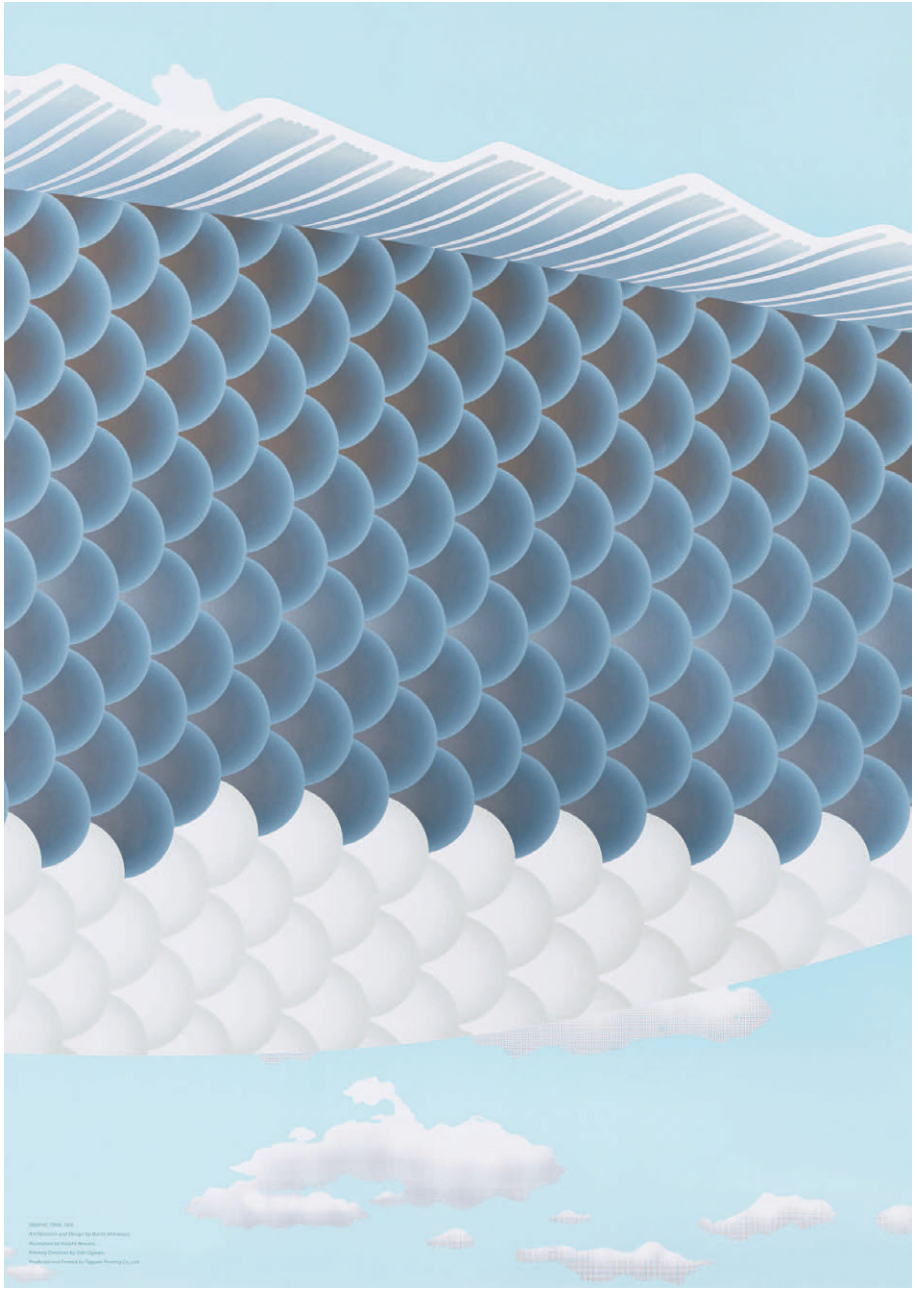
Art Direction & Design : 新村則人 / Illustration : 庭野広祐



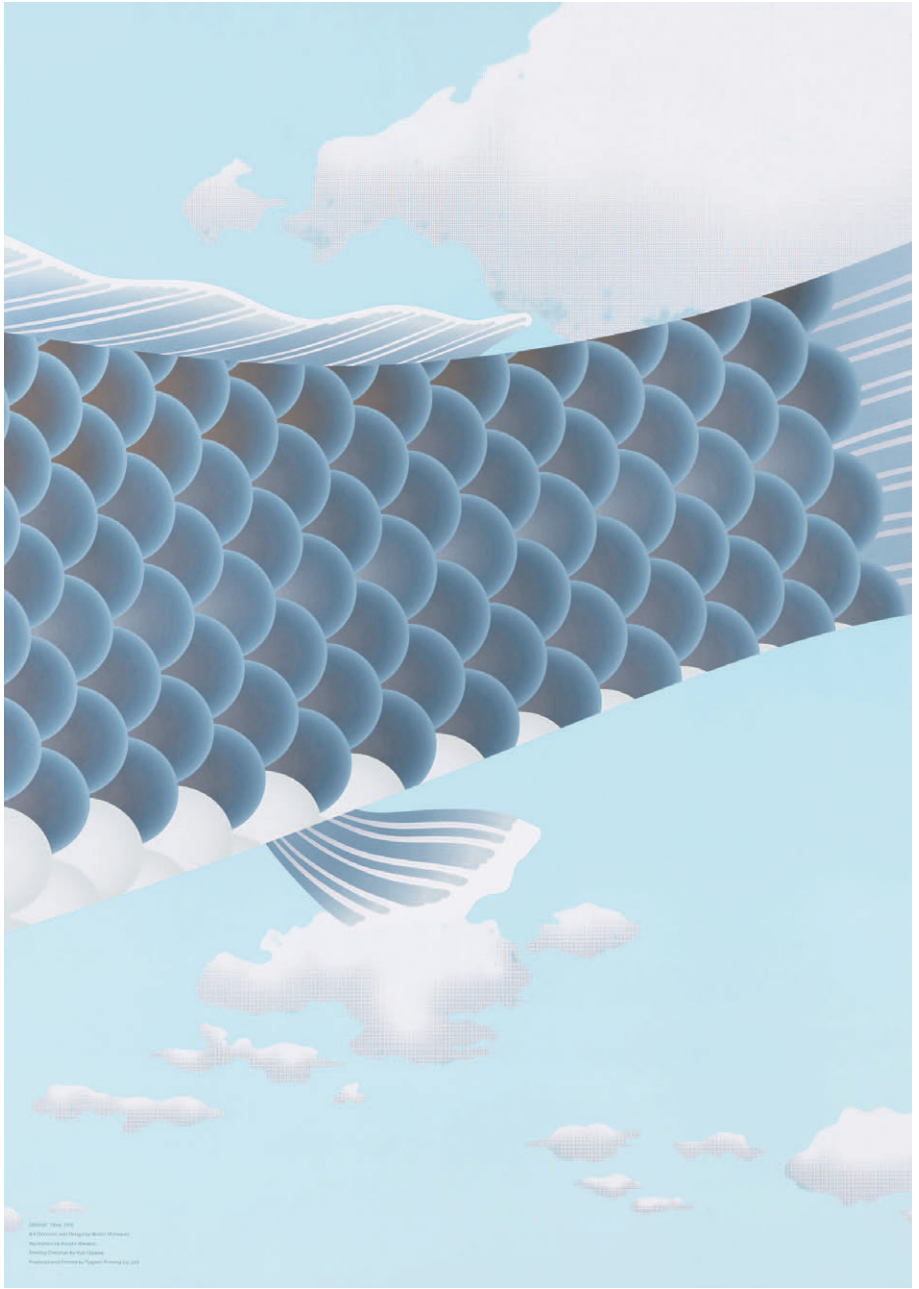
用紙：ヴァンヌーボV / ホワイト　四六判 150kg
版の構成：ブラック→シアン→TOYO CF 10394→TOYO CF 10433→パールメジウム（5版）→銀（Topstar 06 2007）→金→グロスニス（2版）
※展示作品は仕様が異なる場合があります



用紙：ヴァンヌーボV / ホワイト　四六判 150kg
版の構成：ブラック→シアン→TOYO CF 10394→TOYO CF 10433→パールメジウム（5版）→銀（Topstar 06 2007）→金→グロスニス（2版）
※展示作品は仕様が異なる場合があります



用紙：ヴァンヌーボV / ホワイト　四六判 150kg
版の構成：ブラック→シアン→TOYO CF 10394→パールメジウム（5版）→銀（Topstar 06 2007）→金→グロスニス
※展示作品は仕様が異なる場合があります



用紙：ヴァンヌーボV / ホワイト　四六判 150kg
版の構成：ブラック→シアン→TOYO CF 10394→パールメジウム（5版）→銀（Topstar 06 2007）→金→グロスニス
※展示作品は仕様が異なる場合があります

用紙：ヴァンヌーボV / ホワイト　四六判 150kg
版の構成：ブラック→シアン→TOYO CF 10394→パールメジウム（5版）→銀（Topstar 06 2007）
※展示作品は仕様が異なる場合があります

AFTER TRIAL
トライアルを終えて

●トライアルを終えて

キラキラ感と魚独特のヌメっとした水っぽい感じを出したくて始めたこのトライアルでしたが、実はトライアル1のときに、微妙な不透明なパールメジウムの効果を発見し「これもウロコの一つだな」と少し方向転換することにしました。ウロコがちょっと乾きかけた瞬間の不透明な感じと、年輪のように層が見えるところが気に入ってしまったんです。ヌメヌメ感や水っぽさはバーコ印刷でも出せるかもしれないけれど、この濁った輝きはオフセットでしか出せない、そう感じたのも理由の一つでした。

そして、赤・青・黄と挑戦していたウロコの色も、ニュアンスが強く引き出せそうなグレーに絞ってトライアルを続け、濃度違いや配列の効果を確かめながら魚のボディを組み立てていきました。なんとかウロコは完成したものの、最後の難関がヒレでした。大味になりかけたヒレに細いラインを入れるなど、大胆な構図を引き締めるパーツの細部には、ことさら苦労しました。

全体の構成も、最初はウロコの光り方が違う「鯛」をB全1枚に1匹入れる予定でしたが、どうしてもB全5枚で1匹の大きな魚にしてみたくなり、5月5日生まれの僕にとって特別な魚である「鯉のぼり」をモチーフとして選びました。

改めて振り返ると、1片の不透明なウロコを発見した瞬間から大空を泳ぐ鯉のぼりへと、徐々に仕上がっていったような実感があります。いつも悩んでいましたが、悩んで立ち止まるたびに尾河さんがアイデアや解決法を提示し、後押ししてくれ、本当に心強かったです。プリンティングディレクターの必要性が実感できたと同時に、二度と挑戦できない作品をつくることができたトライアルでした。

―― 新村則人

●プリンティングディレクターから

新村さんのイメージするキラキラ、ヌメヌメな「ウロコ」は、オフセットでは最も苦手な類の表現です。インキの被膜が薄い油性インキを使うオフセット印刷では、パールやニスの効果は限られてきます。案の定、ワクワクしながら待っている新村さんをガッカリさせたことも何度かありました。

風向きが変わったのは、パールメジウムの刷り重ねとグラデーションの実験でした。「ヌメヌメ」とは少し違いますが、バリエーションの中に一つ、新村さんも私も「きれいだな」「面白いな」と思えるものを発見したのです。さらに新村さんが「グレーの鯉のぼり1匹でいく」と決心してからはスピードも加速。5枚連貼りで絵柄は1匹の鯉のぼり。大胆な構図の絵の細部に対して工芸品をつくるような気持ちで、グラデーションに工夫を凝らしたり、金銀の効果を使うなど変化を持たせつつ詰めていきました。

写真を一切使わず、純粋に版の設計とインキの濃淡だけで質感をつくりあげていくという挑戦は私にとっても久しぶりでした。オフセット印刷ならではの繊細なグラデーションを生かした表現になったと思います。

―― 尾河由樹